

日本の電力政策の現状と課題 伊藤英夫

2070年頃までにCO₂を実質ゼロとする。
エネルギー基本計画2019年4月2日経産省発表

6月に国連（気温上昇を2°C未満とする）
CO₂実質ゼロを要請）に提出

• 新技術の採用

- 水素の安価な製造⇒2050年に製造費を10%以下とする。
- CO₂の資源化
- 次世代原子炉の開発（事故の危険性を押さえる。）現状の原発コストは高額。

• 見送り

- Xカーボンプライシング
- X石炭火力の廃止

• CO₂を30年度に2013年度比で26%減は困難か（？）

- 現状 17年度で-8%
- 再生エネルギーのコスト低下は必須14円/kWh：2019年度（ドイツ8.3円/kWh:2018年）
- 2012年のFITも高コストの体質を残す。

日本の電力政策の現状と課題

- 電気料金は現在は高くはないが、次のような基本的な問題を抱えている。
- 実現不可能な（？）エネルギー基本計画（エネルギーミックス）
 - 原発比率26%とあるが30基の原発が必要。現状稼働は9基
高騰した原発コスト16円/kWh, 風力は5cent/kWh（米投資銀行の試算）
 - 再生可能エネルギー 20~30%
高止まりの再生可能エネルギー
太陽光発電の国際シェアも低い。
 - 火力の比率が高い
石炭火力の比率が高い。国際的にはCO₂の発生が多く比率は下がる。
とにかく石炭火力のCO₂が多い。→石炭火力には頼れない。
- 送電網の既得権の壁
相互の融通が難しい
現在の送電容量一杯？一方で東日本大震災前から6年間で900億kWhの需要が消えた。

日本には、強権、資金、資源もないが、
健全な競争の徹底という選択肢はある